

えな



「オニがたすけてーって、にげたよ」
武並こども園 年中組 いたう おみと

恵那市教育研究所
http://www.ena-gif.ed.jp/

恵那市長島町正家一丁目1番地1 恵那市役所西庁舎4階
TEL(0573)26-6850 FAX(0573)26-2155

学習者を夢中にさせる授業

恵那市副教育長 工藤 博也



高校時代、KK先生の日本史の授業は、いわゆる教師主導でしたが、不思議な魅力がありました。山川出版の日本史用語集の欄外にあるマニアックな事象まで参照しながら、ひたすら解説が続くのです。ただ、テンポがよく、「実はこんなことがわかる。」「これはすごいことだ。」などという熱い語りは興味深く、古墳から出土した甕(かめ)棺(かん)（亡くなった人を埋葬する大きな土器）の話には太古のロマンがちりばめられており、今でも「かめかん」というワードが脳裏に焼き付いています。いつしか私もマニアックな資料を率先して参照するようになり、自ら深い学びに向かっていった記憶があります。教師主導の授業でも主体的な学習は生み出せるといえそうです。

■子供を夢中にさせる授業名人

子供たちが授業の終末に「もう終わり？」という声を上げることがあります。集中していて、時間の意識が薄れていくのでしょうか。そうした子供が夢中になって活動する状況をつくりだす授業名人にこれまでに出会ってきましたが、それぞれに特徴があります。

名人の一人目は、小学校勤務で出会った「個人追究の充実に取り組んでいた先生」です。その授業の特徴は、「子供たち一人一人が自分のペースで学べる」ことでした。ある時、理科の実験器具を学級全員分（34人）準備し、個人実験をさせていました。さて、いざ実験となると、初めは活動が停滞します。しかし、「子供たちは、行き詰まっているように見えて実はひたすら思考を巡らせて、黙々と取り組んでいるのだ。」という考えのその名人は、じっくり子供の姿を観察しています。そのうち、再現性を求めて何度も実験に取り組む子、仲間の実験結果を参照する子、つまづいている子に支援の手を差し伸べる子、など主体的な姿がどんどん生まれてきました。

いつも実験器具全員分準備することは難しいですが、意図的に子供に任せる時間を十分とる授業を仕組むこ

とは容易にできます。

「できた!」という達成感や満足感が得られるよう、先生が出すぎず、自分で考えさせる時間を十分とることが大切であることを名人から学びました。

授業名人の二人目は、2校目で出会った「とにかくほめることがうまい体育の先生」です。その授業の特徴は、「ポジティブなフィードバックとサポート」が随所に、そしてタイムリーに見られる授業でした。バスケットボールの授業で、めざす姿である様相を見届けた瞬間に短く声を上げるのです。まずまずの姿には「おー」、今日目指す姿に迫ったときには「おーっ!」など、声量やイントネーションを変えて評価をし、終末でそのよかった姿を具体的に価値づけるというものです。子供たちは「おーっ!」がもらえるように、作戦会議に熱が入り、ゲームでも意識して取り組みます。そして、教師からのポジティブなフィードバックをもらい、チーム全員で喜び合う姿が見られました。

いつも授業終末で価値づけの時間をとれないかもしれませんが、授業で見つけたよい姿に「いいね」を発することは容易にできます。

成功体験を積み重ねることができるよう、適切なタイミングで褒めたり、励ましたりすることが、子供たちの自己肯定感を高めることを名人から学びました。

■最後は教師の熱い思いに尽きる

子供を夢中にさせる授業は、子供たちの好奇心、自己肯定感、達成感を引き出すように設計されています。その過程において、自分で考え、達成できた喜びを感じることで、子供たちは学びを楽しむようになります。その達成感を子供たちとともに喜び合えるのが、本物の名人だと思っています。

冒頭でも述べたように夢中にさせる教師は、何よりも授業や学びに対して熱意を持っています。その熱意が子供たちに伝わり、授業が単なる義務感から楽しさや興奮へと変わります。

背筋をピンと伸ばし、満面の笑顔で日本史の楽しさを伝えてくれたKK先生の熱い思いは、私が授業を実践していくうえでの目指す姿となっています。

特集

「一人一人の子供を主語にする授業」の実現に向けて

恵那市教育研究所

恵那市教育研究所では、今年度の教科指導の方針と重点を「主体的な学びを通じて、確かな学力を育成する」と決めました。その中で目指す授業像が「一人一人の子供を主語にする授業」であることが見えてきました。「一人一人の子供を主語にする授業」の具体と、各種指定の発表会を行った学校の取組を紹介します。

1 「一人一人の子供を主語にする授業」とは

(1) 学習を自分ごとにする

子供に学習の当事者としての意識をもたせ、自立した学び手にする。学習を自分ごとにするために、

- ・学ぶ意義や学習の価値の理解が必要。
- ・自分で考え、自己決定したり、リソースに自分からアクセスしたりしながら学ぶことが必要。

(2) 学習の主導権を子供に委ねる

先生が「あてがう」のではなく、子供が、様々な道具や他者から得た情報等を活用・駆使して、自分に合った方法で学習を進められるようにする。

- ・自分のペースで学習を進める。
- ・学習方法等を自分で選んだり決めたりする。
- ・試行錯誤しながら自分に合った方法で学ぶ。
- ・必要を感じたときに自分からリソースにアクセスする。

(3) 学習結果に責任をもたせる

学習内容のみでなく、自らが決定して進めた学習方法についても振り返る。

- ・本時の自身の習熟度を確認する。
- ・本時自分は、どのような方法を選択して学習を進めたのかを蓄積する。
- ・自己決定した学習方法が、本時の自分の学習にとって有効であったのかどうかを振り返る。

2 市内の小中学校の「一人一人の子供を主語にする授業」に向けての取組

(1) 大井小学校（市指定研究発表会）

研究主題：「できる喜びを実感する算数科学習指導の在り方～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を授業改善の視点に～」

【個人追究の場面での個別最適な学習の選択】

これまでは、「個人追究の時間」、「ペア交流の時間」という風に明確に分けて行われることが多くありました。しかし、大井小学校では「最初の〇分（3～4分）は個人追究の時間、その後の〇分（5～6分）は、個人追究を続けたければ続け、仲間と交流したければ交流をする」という設定にして、追究に自由度をもたせています。そして学校独自で「個人追究段階表」を作成し、本時の個人追究の時間は、自分はどのレベルの学習方法で行うのかという、個人追究での取り組み方を児童に自己決定させます。

さらに大井小学校では、個人追究で児童が選んだレベルに応じて学習に必要なリソースを準備し、児童が必要に応じて



活用できるようにしています。（教科書の活用、ヒントカード、解説動画、友達の学習状況（他者参照））

このような取組により、児童は自分に合った学習方法を選択しながら、自分のペースで追究をすることができていました。

(2) 三郷小学校（市指定研究発表会）

研究主題：主体的に考えや気持ちを伝え合う言語活動に取り組む子の育成～外国語活動、外国語科を通して～

【振り返りでの学び方の振り返り】

研究内容3として、「到達目標を意識し、自分の伸びや変容を実感できる評価方法を工夫する」を掲げ、「ICTを活用した自己評価」を行いました。児童は授業の中間での自己評価として「Half Time」の時間にロイロノートのシート



らに「Kira-Kira Time」では、学年の発達段階に応じて本時の学びについて、内容面と言語面からの自己評価を文章で記述します。

中には内容面と言語面に加え、「学び方」にかかわる振り返りを記述している児童もあり、自己の学びを客観的に捉えている場面が見られました。



(3) 恵那北中学校 (市指定研究発表会)

研究主題：誰もが必然をもって学び、「できた」「分かった」を実感できる授業の創造

【学習を自分ごとにするための工夫】

1年生国語の学習では、本の書評を書き、仲間とアドバイスをし合っており、よりよい書評にしていく活動を行っていました。



教科書には、「何のために」「誰に対して」書評を書くのかといった内容は示されていません。そこで、「他学年にももっと本を読んでもらえるような書評を書こう」という課題を設定し、目的意識や相手意識を明確にすることで、単元の学習の意義を生徒に感じさせていました。

また本時は、授業の導入で、班で助言をし合う活動を行う前に教師の書評のモデル提示をし、目指すべき書評や、班交流の在り方について生徒が具体的にイメージできるようにしていました。

生徒は「モデルのように自分の書評を良くしたい」という願いをもち、学習を自分ごととして捉え、前向きに取り組んでいました。

(4) 上矢作中学校 (東濃地区へき地・複式教育研究会研究大会)

研究主題：主体的に学ぶ生徒の育成～教科の楽しさを一人一人が実感できる授業を目指して～

【共同追究の場面での生徒による交流の進行】

国語科では、3年生「故郷」の学習を行いました。

本単元での教科の楽しさを「叙述を基に、表現や筆者の意図に着目したうえで、自分自身や現代社会と比べることで作品を批評する」と定義し、「『故郷』の批評文を書こう」という単元を貫く課題を設定しました。公開をした本時は、レントウとの再会場面の学習を行いました。個人追究は各自で行いましたが、共同追究は5人ずつ2つのグループに分かれて交流を行いました。ここでのグループは、事前に教師と国語系の生徒とで話し合いを行い、国語の力、話すことの力、仲間関係等を考慮に入れて構成されたものでした。司会の生徒が進行をする中で、一人一人の生徒が自分の考えを発表していきます。単元を貫く課題を意識しながら、生徒からは「作者の魯迅は当時の中国の社会を表そうとしている。」や「昔は対等だったけれど、今は身分の差を意識している。」などの意見が出されていきました。生徒たちは、自分の意見を言った後「〇〇さんはどうですか？」と問い、仲間の考えも聞いていきました。全体での交流ではなく、少人数のグループで交流をしたことで、一人一人が「仲間の意見をしっかり聞かなければならない。」「自分の意見も言わなければいけない。」「課題解決をしたい。」という意識をもって、学習の主体者となって参加をしていました。



グループでの交流後は、教師が各グループで中心となっていた話題について発表を促し、

代表生徒が発表をして双方のグループ交流の内容を共有していました。

児童生徒が主体的な学びを行うようになると、子供たちで学習内容を深く掘り下げようになります。そうすることで、仲間との交流が形式的なものではなく、「〇〇さんの考えを聞きたい」というように、熱が入ったものになります。最終的には、授業終末のまとめの記述も、内容の質が高まり記述量も増えていきます。

来年度も、教育研究所として「一人一人の子供を主語にする授業」を目指していきます。

特集

他者と繋がり 学びを深める オンライン合同授業

今回は、生活圏の違う学校と交流を行っている上矢作小学校の実践を紹介します。上矢作小学校は鹿児島県垂水市の小学校と交流をしています。森林に囲まれた岐阜県と、海に囲まれた鹿児島県と交流をすることで、様々な違いや共通点に気づくことができます。

【上矢作小学校の実践】

小学校5年生が社会の時間に交流をしています。これまでに、自己紹介などの顔合わせの交流と、社会の「漁業の仕事について知る」の合同授業が行われました。11月には、社会の教科書にも紹介されている垂水市のぶりの養殖について、4校の学校で学ぶことができました。



当日は、4つの学校を1つの学級にしてロイロノートを活用していました。実際にぶりの養殖を行っている方から話を聞きながら、生活圏の違う児童が質問に答えたり、自分の考えを提出したりすることで、様々な考えを知ることができていました。3学期には上矢作小学校が中心となり林業の学習をする予定です。以下は授業を終えての児童の感想です。

いつも朝はやくから起きてお世話をしていますすごいなと思いました。カンパチは、大きいもので2mあって、自分よりも大きいのですごくびっくりしました。前に授業で習った3Kもでてきて、汚い・きつい・危険という良くない印象だったけど、今では、綺麗・稼げる・かっこいいという良い印象に代わっていることを改めて知ることができました。いつか実際に鹿児島に行ってみたいと思いました。

この授業で初めて知ったことは、養殖の仕事のスケジュールです。私は、養殖は餌をあげたり環境を整えたりするだけだと思っていたけど、今日、話を聞いて魚に決まった餌をあげたり、魚の健康とかなども気にしているということを知ってびっくりしました。(中略)私は、授業をした時も少し興味がわいていたけれど、今日この話を聞いてもっと興味がわいたので調べてみたいなと思いました。

Web会議室システム（Zoom）を利用することで様々な学びができるようになりました。上矢作小学校のように、目的を明確にし、その目的を達成するために、どのような活動をするかよいのかを考えて、実施することが大切です。



「自主的、実践的な態度を育成する特別活動」の実現に向けて

恵那市教育研究所

恵那市教育研究所では、今年度の特別活動の方針を「自主的、実践的な態度を育成する」と定めました。7月に発行した「研究所だよりNo.282」では、重点である「様々な集団活動を通して互いのよさや可能性を發揮しながら、集団や自己の生活上の課題を明確にし、それを解決しようとする態度を育てる指導の充実」を図るための学級活動の基本展開と活動ごとの指導援助について紹介しました。これを踏まえ、今年度、学級経営の研究に取り組まれた恵那東中学校の実践を紹介します。



研究主題

「仲間と共に自発的、自治的な活動を充実させることで、よりよい生活やよりよい自分を実感できる生徒の育成」

研究内容1	研究内容2	研究内容3
<p>話し合い活動に必然性や意欲を生み出す事前指導の工夫</p> <p>「学級づくりアンケート」を活用して、学校生活をよくするための課題が何かを適切に捉えられるようにしたり、リーダー指導や課題共有を工夫したりすることで、一人一人が当事者意識をもちやすくなるようにしています。</p>	<p>課題解決に向けて、活動の見通しや意欲がもてる話し合い活動の工夫</p> <p>「議題の確認、出し合い、比べ合う、まとめる（決める）、決定の確認・振り返り」という基本展開を職員間で共有するだけでなく、話し合い活動の際に黒板に位置付けることで、生徒自身が見通しをもって意見を出せるようにしています。</p>	<p>学級や自己の成長段階や高まりを振り返る活動の工夫</p> <p>年間の大きな行事を核に、「事前の話し合い」、「途中の話し合い」、「事後の話し合い」を意図的に仕組み、その中で、生徒の意識をどのように育みたいか明確にしたり、自分の願いを基に自己の高まりに気付くような振り返りを工夫したりしています。</p>



先輩の教え

心に残る遊び・授業・先輩・職員

恵那東中学校 校長 西尾 英憲



「こんなところで死ぬもんか。」私が社会の授業づくりのため取材した戦争体験者の方が、皆共通して口にされた言葉です。取材の一部を紹介します。・・・台湾に出兵したAさんは、マラリアに感染し、高熱にうなされながら「こんなところで死ぬもんか」の

思いだけで生き延びました。彼の周りには、戦闘が理由ではなく、食べるものがない劣悪な環境によって死んだ仲間が沢山いたそうです。・・・中国戦線と国内の軍港において指導的立場で働いたBさんは、新人の若い兵士が捕虜の処刑の仕方を教わっているのを間近で見ていたそうです。しかし若い兵士達は、間もなく戦場で次々と死んでいきました。終戦後、死んだ兵士の家一軒一軒に「何も入っていない」戦死を知らせる箱をもって行き、黙って受け取る家族に、戦死を知らせました。この仕事が一番つらかったと語られました。・・・満州の飛行場で通信の仕事をしていたCさんは、終戦の知らせを聞いてすぐ、全ての資料を燃やしました。武装解除で武器を取り上げられたため、夜中に必死で下水の中を逃げたそうです。しかしソ連軍

につかまりシベリアに送られ、強制労働へ。マイナス何十度にもなる極寒の地で、きつい労働、乏しい食事、夜寝たら朝死んでいる仲間、その仲間を凍った土を掘って埋める毎日。「こんなところで死ぬもんか」と自分に言い聞かせたそうです。・・・駆逐艦陽炎に乗っていたDさんは、魚雷の横で寝ていた時、何十の敵機から雨のような機銃掃射を受け、浮いていた丸太にしがみついて2日間漂い、見知らぬ島にたどり着いたそうです。何とか帰国しましたが、またすぐ別の隊に配属されました。終戦後、朝鮮が敷設した機雷を片付ける仕事をしたそうです。「戦争中、何回も死にかけた。その度に、こんなところで死ぬわけにいかないと思っていた。生きて帰ってこれるとは思っていなかった。」そう静かに話されました。

私は、授業のためにしみじみと語ってくださった先輩方の思いを、すべて子ども達に伝えられたかどうかは分かりません。しかし、戦争の原体験のない自分が、戦争を取り上げた授業をする時、先輩方の教えは私に、子ども達にどのように学ばせるかを真剣に考える機会をくださいました。社会科教師としての自分を育ててくださったことを忘れません。



遊びは学び！ ～決めて、考えて仲間と育つ子～

岩村こども園

岩村こども園は歴史と自然に囲まれた城下町にあります。子供たちは地域の方と交流をし、お世話になりながら様々な経験を重ね大きくなっていきます。今年も園のテーマである『遊びは学び！～決めて、考えて仲間と育つ子～』を基に楽しい保育を目指しています。

1. すいすい遊ぼうデー

始めたきっかけは、園児が遊び始めて楽しくなってきた頃に、「お片付けだよ」と放送が入るとそこで遊びが終わってしまい、子供たちが残念そうにしていたことでした。そこで、私たち職員は、「止めないでお昼まで遊ばせてみよう」「子供の遊ぶ時間を保証してあげる日があってもいいのでは」と話し合い、毎週水曜日に「すいすい遊ぼうデー」と名付けて始めてみました。すると子供たちは、思い思いの場所へ行き、やってみたい遊びを見つけ、友達同士で協力し合いながら自分たちで考えて遊ぶ姿が見られました。自由遊びばかりではなく時には集団あそびを行い、子供たちに集団遊びの楽しさを広げることも行っています。「すいすい遊ぼうデー」の経験を重ねる中で、子供たちが異年齢で遊ぶ姿も見られ、嬉しく思います。また、外遊びばかりではなく室内では、廃材を使って自由に作りたいものを作って遊んでいます。部屋にはヒントになる本を置いておくことで、自分たちで本を見て考えて作り始め、やってみても分からない時は保育教諭に聞き、友達の作ったものを見て真似して作りたくなり、作り方を友達に聞いたりしながら協力して作る姿も見られるようになって



でも分からない時は保育教諭に聞き、友達の作ったものを見て真似して作りたくなり、作り方を友達に聞いたりしながら協力して作る姿も見られるようになって



きました。職員としては、子供たちと一緒に遊びながら今環境設定に何をしたらいいのか考え、「子供の考える時間を待つ」「不要な言葉がけはしない」「子供のやる事には理由がある」等を意識して取り組んでいます。そして、子供の気付きに共感し職員間でも共有するようにしています。保育教諭が先回りせず子供が考え、気付き、遊びから学んだことを大切にしながら行う保育を心がけています。「すいすい遊ぼうデー」は、今では子供たちの楽しみな日となっています。

を待つ」「不要な言葉がけはしない」「子供のやる事には理由がある」等を意識して取り組んでいます。そして、子供の気付きに共感し職員間でも共有するようにしています。保育教諭が先回りせず子供が考え、気付き、遊びから学んだことを大切にしながら行う保育を心がけています。「すいすい遊ぼうデー」は、今では子供たちの楽しみな日となっています。

2. 地域との交流

地域の方とも畑仕事を通じて交流しています。『さつまいも作り』では30年来畑を貸していただき、苗付けや芋掘りの仕方ばかりでなく、子供たちが植えやすい様に掘りやすい様にと子供の手を取りながら分かりやすく教えていただいています。また、暑い中の水やりや畑の管理とすべてに力添えをいただいています。

子供たちは、一年を通じてサポートしてくださるお礼に、歌を歌って地域の方との交流も楽しみにしています。また、地域の老人ホームの方には、大根抜きに招待していただき野菜の収穫や高齢者の方と肩たたきをしたり、リズムを見てもらい核家族が多い今の時代貴重な経験もさせていただいています。他には、いちご狩りにも近くの農園さんに招待していただいています。散歩に出掛ければ、地域の方から話し掛けていただきコミュニケーションをとる事もできるようになってきました。地域の皆さんに温かく見守られながら子供たちも成長しています。

これからも地域の方々との関わりを大切に、たくさん遊んで、経験をして学んで成長していけるように保育をしていきたいと思っています。